



特別
~4
5260
2



門 へ 4
番 5260
巻 2

昭和二年
十二月四日
堀江



拾遺和歌集卷第十一

意一

後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ

天曆時哥合

主は忠貞

忠貞子

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

平魚威

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

平公誠

陸奥守元平子
用防大位

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

題云す

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

五言 後をきかぬ食故し四合に任者し後天徳元年時初きて召上らば朱薙門の曲殿に和歌を詠みし時乃小袴衣と今かく崩し録之は時の事と云ふは云ふ
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき
あはれとてよみほ下はたかみすけしと人のふきするはきくもさき

五破法漢...
古今...
心明侍従...

わさるるちりぬありの海平島...
身あはしあはれ...
権申知言歌集

源邦正
五子章明親王

心明侍従...
人...
大正...

いそはるる...
いそはるる...
いそはるる...

五子章明親王

未...
あは...

あは...
あは...

あは...

あは...
あは...

あは...

あは...
あは...

あは...

あは...
あは...

ちりりしとあはせてあは
あつりし人のあはし人
あまのこゝろ也

限あるあつりし切なり
れんれをこそあつりし人々
あつりしあまのこゝろ
まわしつゝあまのこゝろ
莊子吾生也有限而無涯
無涯故有涯隨無涯殆已

まゝの侍をいふ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

思ふ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

五輪をいへばあまのこゝろあまのこゝろ
あまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

九條をいふ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ
あつりしあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

下三つとらるるを
とらるる方と云ふ
つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

魚 中務
つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

類不知

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

つみしんこうと云
あつてそのつみ
つみしんこうと云

尾乃漏名比は...え印ておす...をういけ...とせ

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

柿平丸

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

柿平丸

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

藤原實方初

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

玉...のき...
玉...のき...
玉...のき...

同社乃行...
同社乃行...
同社乃行...

神くちよけとていふを
とてあつたをいふは
多し神くちのついで
たの御いよ

君に神くちのついで
たの御いよ

ついで

人よついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

天曆時分公丹 中納言初忠

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついで

ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついで

ついでついでついで
ついでついでついで

大伴直世

ついでついでついで
ついでついでついで

源位基

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

ついでついでついで
ついでついでついで

4
あけのつとふ
はまし

まよひのしるし
はまし
あけのつとふ
はまし

拾遺和歌集卷之第十三

戀二

長

久人

春の野あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

春の野あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

人麿

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

人麿

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

人麿

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

藤原忠房朝臣

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ
あはれなるよふ名所にしもの身ははたふ

何は乃は乃根乃
後つとて入く事ふ
中とて入く事ふ
秘めし物いふや
とて思ひあはうて持て
忠信を記大和の記は始と
東乃の記

あひつがひらるゝ位の之れ堂の妙ありあはれ
忠房のしと免のしと免
大納言清家のしと免
陽成信内子延長三
賜源姓

信乃は乃根乃
後つとて入く事ふ
中とて入く事ふ
秘めし物いふや
とて思ひあはうて持て

丁より始りては
大納言のしと免

大和信乃の記
二夜生始りて
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

忠信の記
他人を記しき
物とあはれ
あはれ

何れんし
あはれ
あはれ

片断の記
人わらき
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

高き川馬や所はなれど
紅行し虫のあま

もやしと

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

秋乃まきも色しきりきり
かきかりけしきりきり
いそいでいかりきり
いそいでいかりきり
いそいでいかりきり

風しきりきりきりきりきりきり

序守く後火の
ゆきの雪の
火の雪の

きりきりきりきりきりきり

まの明し

きりきりきりきりきりきり

まの明し

きりきりきりきりきりきり

まの明し

きりきりきりきりきりきり

まの明し

きりきりきりきりきりきり

まの明し

きりきりきりきりきりきり

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

もやしと

はなのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

後海公のうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

くさくさのうらみもくさくさのうらみも

そくしつめいふくは

一陳板

ほくしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめい

あつしつめい

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめい

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめい

あつしつめい

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめい

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめい

あつしつめい

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめい

あつしつめい

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

あつしつめいふくは
あつしつめいふくは

あつしつめいふくは

拾遺和歌集卷第十三

戀三

題不知

讀入三寸

ゆ人のつれをみてもはれなく
移りぬ入伸きほこしむま
りふきおよそあや
こしれま

あし虫のしるしは
しるしはしるしは
しるしはしるしは

去りて万葉の礼を
ゆきかたの礼を
ゆきかたの礼を
ゆきかたの礼を

しるしはしるしは
しるしはしるしは
しるしはしるしは

序のついで

はるのついで
はるのついで
はるのついで

止すのついで

はるのついで
はるのついで
はるのついで

はるのついで

山はよもく極易世くをり書れ
移して移んともやや

石上し麻呂 九大臣麻呂

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

よもく

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

人

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

國書院の時

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

平急感

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

深

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

中督

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

あはよのふたふた着るはよもく世をぬ

京もよみとてきくもつたるおりまかり
くららむおのあつらるる

よみし

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

井
月とておのれとておのれとて
心長かつらるる

おのれとておのれとておのれとて

申宮の侍馬 大和行舟時明女

那
あつらるる

おのれとておのれとておのれとて

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

おのれとておのれとておのれとて

春宮たの 小大

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

おのれとておのれとておのれとて

あつらるる

をけし一程の道に申へば一ふ話のし
今なきおぼやうな事

おぼやうな事
人の心はさうのまへ
とあるねあつたものと
いらくはななきあつたものと
習はふあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと

あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと

人語

八十街ふくろのまじりたる夕卦つとハ夕卦は百はまじり
むらりむらりたる夕卦をつとハ夕卦は百はまじり
味はなまじりたる夕卦をつとハ夕卦は百はまじり
けいしき吉にむらり
とあるねあつたものと
いらくはななきあつたものと
習はふあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと
あつたあつたものと

延喜十五年御序

い明しうたれどしをす
かへよの花明し

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ふたはてすよをらん序句し
伴雲形云わを移
うらんアアアアア
るアアアアア
アアアアア
ゆらんすすすすす
をねちうろ神のまをふかす
とけふとけふとけふ
のく神のまを移
れと神のまを移
立かき入心を誰
方よりさるしん
やねを宿まむせ
を御天わしを
立てらんを
りねらんを

い明し

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

い明し
かへよの花明し
~~~~~





こゝに於ては凡の身...  
あつては...  
かゝる...

曾好忠

いかに...

題...  
人...

りかぬ...  
か...  
す...  
あ...

初日...

人...

序...  
は...

秋...

居...  
住...  
う...

住...

赤人

形...  
こ...  
あ...

色...

申物の...

廣平親王

天曆...  
母...

族...  
お...  
人...  
あ...

知...

題...

序...  
あ...

あ...

中...

あ...  
あ...  
あ...

あ...

あ...

あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...



拾遺和歌集卷第十

恋心

題三十一

人麿

ほつりけし 鐘 五ヶ月  
まてりしきさ  
なるし

あはれなるけしきさ  
のたれなる  
え捕りしきさなるけしきさ

藤原実方御作

とゆめてし  
へんりしきさ  
まてりしきさ

時のまてりしきさ  
あはれなるけしきさ  
まてりしきさ

あはれなるけしきさ  
まてりしきさ  
あはれなるけしきさ

あはれなるけしきさ  
まてりしきさ  
あはれなるけしきさ

在りし人目上りて色はかりし

此の心は...  
小戴命婦

...  
小戴命婦

...  
...

...

...

...

...

...

...

...

上句...  
下句...  
...

...

...

...

...

...

...

藤原忠房別名

...

...

...

中の...  
...

わつとあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

わつとあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

源頼光

わつとあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

右近  
ワヤネ絶世

いふこといふこといふこと  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ

あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ  
あつてあつていふこといふ





わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

中務

わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

源經基

わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

伊保

わあんのあつひのりてすのぬゆ寝るし  
知りてまらぬ  
あはれとていふ  
車かたをわらふ

源經基



雲井なる人  
雲井なる人  
雲井なる人

雲井なる人  
雲井なる人  
雲井なる人

心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

心腹  
心腹  
心腹

この御中あつぬのころに  
わがさるるあ  
この歌をよめる

つゆのうらとくをよめる  
えいふるふいふの命をよめる

れいけいけいけい

ねるねるねるねる  
あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

この

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

掃く人磨

あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

拾遺和歌集卷第十五

恋五

善祐法師 （集乃作者）

くわん

因つてりて世裏海よかして  
若初と日法と海よりして一  
わんとして母の心ねし相  
介をわびて子をばらばら  
去来衣然のゆかれ  
いまや社帯の束人  
あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

くわん  
あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

よのこ  
あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

よのこ

いせよあつてりて世裏海よかして  
若初と日法と海よりして一  
わんとして母の心ねし相  
介をわびて子をばらばら  
去来衣然のゆかれ  
いまや社帯の束人  
あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ

あつて同神唐首のい人して三林の若き人へ





歌——

はらりてきつむらうに火をわらむはらりて

ころりてむらうのわらむはらりてきつむらう

坂上邸女 シトメ 万葉作者

思ひもあはらうに浦をわらむはらりてきつむらう

あはらうにむらうのわらむはらりてきつむらう

あはらうにむらうのわらむはらりてきつむらう

あはらうにむらうのわらむはらりてきつむらう

あはらうの歌

あはらうの歌 伊弉諾山へつたて

近江院時少将更家

あはらうの歌 あはらうの歌

あはらう

あはらうの歌 あはらうの歌

あはらうの歌

あはらうの歌 あはらうの歌

あはらうの歌 あはらうの歌

あはらうの歌 あはらうの歌

あはらうの歌 あはらうの歌

近江院時少将更家 延喜寺

あはらうの歌 あはらうの歌

人をあつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら  
ありあけしつゆ

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

長崎府中記  
反機作者

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

長崎府中記

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

長崎府中記

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら

あつとふらふらあふらふら  
あつとふらふらあふらふら

心評くくみはまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
并の心とくくみはまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
はらふまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

本云 迷子清懐公  
天曆御製

むののうみまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
はらふまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

平忠依 隼人正 右中衣布世子

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
はらふまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
はらふまほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云  
まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

まほふいれふりまのしや 矢張云 尊神云凡花彈國毎年貢匝丁一百人其返抄ハ准諸國調帝例云

鹿嶋抗麻神  
帝徳つづく  
よれつづく





けしき凡の法要之集云々も御札のりもわびてあるは縁なきこと  
 ありきまをりしりて水又延つることも  
 今の心もまておれぬる御札をわびてはしるはしるして  
 あることなれば  
 うなれしつら  
 うこと明を感して

紀女らぎ  
京集

きのふ春をいれは  
 をあまふはし  
 命めあつらほ思ひのまじふ梅のむきし初め  
 なまはゆるる可家り梅は花とみゆる  
 中務卿具年親王

宇内ふりまさん  
とて乃事かならし  
凡運せり梅の  
名物梅也り  
ゆはる言が、餘情おほゆる也  
 うらわらうあまをこそ梅もあつらふはしと  
 せしめ女院乃屏風  
 贈るゆはは 菅 京集

子くしてけしきもまき  
 物ふしつら中しはれて  
 へるしと神しと也  
 けしきもまき  
 なまはゆるる

しめはしめわたりはしとまき  
京集  
 題不知  
 中納言忠信廣庭 京集

僻業物云ね  
ていへる人  
しる由しとる  
 花乃さつあすはらうとまき  
 天曆御時なまはゆるる  
 うしつめおらうとまき  
 一陳御政

多のあれうと基後  
後目抄云はつれう  
とつらひとまき  
るののりあか  
うはつらひとまき  
 花乃さつあすはらうとまき  
 ち御時梅花のさつあすはらうとまき  
 も御時を給小殿上乃まき

春申の白ひまわり  
梅の影をさす  
ありとも

つづらさるふ  
源寛信朝  
折てらるひまわり  
梅の影をさす  
ありとも  
内裏乃御控行々  
春議修衛

白後ハぬき捨るふ  
梅乃又まき入る  
つづらさるふ

清和のついで  
母ハ女御佳子貴之集  
右大將六十家信和乃七文ハ御息所  
御と此集してハけ集乃可也  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも  
春議修衛

ふかひ入てしゆか  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも

大集云天元二年十月依宣旨  
御の御所  
御をさす  
ありとも

國融院御時  
屏風十二枚  
源順

梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも

梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも

右衛門督公任

春の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも

梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも

梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも

梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも  
つづらさるふ  
梅の影をさす  
ありとも





他の方へ一何足てくあて  
行して見しがれあてくあ  
ちれは向くてあてくあ

題しす  
ふみふしす

何程うかきかたしれむらねおれくあてくあ

神乃みんくあてくあ

エケノコト  
言削書言

まかかたのあてくあ  
返ぬ乃神れあて  
あてくあてくあ  
あてくあてくあ

山に定まのあてくあ

春のあてくあ

あてくあ

とさかたあてくあ

加賀初法師  
比叡山

聖老をくあてくあ  
あてくああてくあ  
あてくああてくあ

あてくあ

あてくあ

世にわさきあてくあ  
あてくああてくあ  
あてくああてくあ

あてくあ

あてくあ

あてくあ

あてくあ

あてくあ

あてくあ

あてくあ

あてくあ

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

三門軒

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり  
あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

くわんし

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり  
あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

主生忠見

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

御導師浄光

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

僧正遍昭

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

あきわちあはるもかきまき  
橋のうらふはかりてゆき  
よのこゝろしこゝろ  
命をけりまかり

從二位上皇太子本院修女改下時平女

大和守

五月八日... 藤原忠房... 是詞子

午... 藤原忠房初見

寫のま... 藤原忠房初見

東... 藤原忠房... 是詞子

あつ... 藤原忠房

心... 藤原忠房

清慎... 藤原忠房

上... 藤原忠房... 是詞子

藤原忠房

清慎... 藤原忠房

藤原忠房

唐... 藤原忠房... 是詞子



はらばらめあけ中... 花ははらばらの二葉に...

みよきあけし葉はらばら... 花ははらばらとて...

せんくうり金鼓和名... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

せんくうり花名を... せんくうり花名を...

執を執りて... 執を執りて...

定徳御河南殿... 定徳御河南殿...

源公忠初作... 源公忠初作...

主殿察伴氏乃所収也... 主殿察伴氏乃所収也...

三豆山... 三豆山...

花を名ぬ... 花を名ぬ...

花を名ぬ... 花を名ぬ...

三豆山... 三豆山...

花を名ぬ... 花を名ぬ...

花を名ぬ... 花を名ぬ...



新所と云は此あるを  
とてしつとほほほまのき  
とれんま後一  
アありしや  
乙位初片

中月日ありしと云は  
之を解くことしつとほほまのき  
とてしつとほほまのき  
とてしつとほほまのき

春の  
延長三年九月廿八日  
延長三年九月廿八日  
延長三年九月廿八日

とてしつとほほまのき  
とてしつとほほまのき  
とてしつとほほまのき  
とてしつとほほまのき

つとほほまのき  
つとほほまのき  
つとほほまのき  
つとほほまのき

松をりつとほほまのき  
延長三年九月廿八日  
延長三年九月廿八日  
延長三年九月廿八日

史記高祖本記曰  
呂后曰季所居  
帝有常也故  
從往帝得季  
呂后死後  
八云山抄  
史記高祖本記曰  
呂后曰季所居  
帝有常也故  
從往帝得季  
呂后死後  
八云山抄

ちられたものつとほほまのき  
白太后之棺を又國書年

たはじすあれ中又  
道長公母一東院名長保  
二十二月廿中  
たはじすあれ中又  
道長公母一東院名長保  
二十二月廿中

つとほほまのき  
右出の書乙位

史記高祖本記曰  
呂后曰季所居  
帝有常也故  
從往帝得季  
呂后死後  
八云山抄  
史記高祖本記曰  
呂后曰季所居  
帝有常也故  
從往帝得季  
呂后死後  
八云山抄

つとほほまのき  
つとほほまのき  
つとほほまのき  
つとほほまのき

郭公のつとほほまのき  
郭公のつとほほまのき  
郭公のつとほほまのき  
郭公のつとほほまのき

屏風の書  
つとほほまのき



記... 月日... あり...

一條後改乃... 三石代明親王乃...

こころの... 一條後改乃... 贈會后文...

時

は海... あり...

題ふ知

躬恒

大正... あり...

うら... あり...

あり...

あり... あり...

拾遺和歌集卷第十七

雑秋

屏風七月七日 源順

光集... あり...

あり... あり...

平為盛

あり... あり...

織女... あり...

あり...



波の心を續けしうとくさうらて美人とて  
非たわさちうして夜を星にたぬる水の  
綾と美人とも  
水あつたの日は

七月七日の夕暮

平定年  
藤原義孝

右近守の春宮権亮

春をよめて秋風吹る早  
のやとちり梅といふか  
あしんあうとせ  
夕ま回んとも

秋をよめし  
夕ま回んとも  
あしんあうとせ  
夕ま回んとも

寂照大江定基法皇  
が元子三行寺住持  
のやとちり梅といふか  
あしんあうとせ  
夕ま回んとも

天の  
七夕後朝ふにぬ  
ゆるるるこた  
つら

あひなをそりし  
あひなをそりし  
あひなをそりし

あひなをそりし  
あひなをそりし  
あひなをそりし

あひなをそりし  
あひなをそりし  
あひなをそりし

あひなをそりし  
あひなをそりし  
あひなをそりし

ひのり...  
物つひ...  
なを...  
なを...

僧正遍昭

うめは...  
の...  
の...

し...  
し...  
し...

梅の...  
の...  
の...

あま...  
の...  
の...

國...  
の...  
の...

あ...  
の...  
の...

平高盛

あ...  
の...  
の...

あ...  
の...  
の...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
の...  
の...

あ...  
の...  
の...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
の...  
の...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
の...  
の...

あ...  
の...  
の...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
の...  
の...

あ...  
の...  
の...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
の...  
の...



聖中をながしうは月には縁を  
くはし街に八十の月ををを  
池やうらりうらり

引集は源大細を大谷日の  
四尺屏風乃移れあり

並居と波乃うして居るよ  
うらやうら月乃  
うらやうらみみ  
うらやうらみみ

走井かを波乃色しゆあけの酒ハ  
夕露に渡るとうらやうら  
閑とけは酒乃を井  
ハ行りて乃けを

庭は花を虫色  
ゆきあし人をほ  
しりや

歌渡渡

新集集は年詞とガ  
うらやうてあ

うらやうてあ

うらやうてあ

八月ののまれつり殿

うらやうてあ

清博公の十哲の屏風

うらやうてあ

うらやうてあ

うらやうてあ

うらやうてあ

昔雨天の日をわけてゆき  
くはし街に八十の月ををを

な草とくはし街に八十の月ををを

二百六十首乃うらやうてあ

うらやうてあ

うらやうてあ

うらやうてあ

みつれ

うらやうてあ

うらやうてあ

うらやうてあ

秋風のうらやうてあ  
うらやうてあ  
うらやうてあ  
うらやうてあ



華風はちやうどわし風  
取らるるを以て下  
えりてて丹の島と  
んくきしや  
小ありをれ真とこしやみかひくはり

吹風からる梅うしと菊しとらみありしとあはれ  
れはみしけるあしとまれはて後まは  
うつらひてゆるるとつるまよとて

華風はちやうどわし風  
取らるるを以て下  
えりてて丹の島と  
んくきしや  
小ありをれ真とこしやみかひくはり

ふみ人さしす  
はつとく  
人まら

余無後世おし  
刈てぬめん合と  
うとくあつとハ赤裳

屏風はあましのねんことららわら侍  
らるる  
たはし

毎年小いづる橋か  
かきうりしと  
つとむらわらつ  
奥の奥わら

秋とらわらつるねづつはとむとむとららわら侍

延喜御河月次は屏風のうへ

躬恒

りてすすらぬの橋とほしとてとららわら侍

とららわら侍  
まはら侍  
まはら侍

とららわら侍  
まはら侍  
まはら侍

とららわら侍  
まはら侍  
まはら侍

延喜の御筆しめては後  
丁ふきわらぬしと亭  
子院の初名

院の御筆の  
希(甲)とて也

去昔云津幸子てり  
ともしれり三行香を  
つけしとお祭り

小倉山への空をへ  
天子此の御幸つ  
まはしめゆきよ

以旅人をなかり  
あはれと三田飛乃  
きりつりや朱  
賣の古事流記

立降只はのりや  
傍にきてあはれ  
入る古事前と回

竹何(何)の  
水原にお祭り  
竹の流れ解ゆ

水原にお祭り  
竹の流れ解ゆ

とちて

小隆右の御  
貞任云

あひらのみちら  
あはれと三田飛乃

大中臣能宣

あはれと三田飛乃  
あはれと三田飛乃

三田飛乃

新大院の御

水原にお祭り  
竹の流れ解ゆ

あはれと三田飛乃  
あはれと三田飛乃

清原之輔

谷上庄に  
氷原の名や  
月影の流れ

水原にお祭り  
竹の流れ解ゆ

修理  
内血元在玉の女

水原にお祭り  
竹の流れ解ゆ

水原にお祭り  
竹の流れ解ゆ

順集八康保二年

秋の果と飽果のふひひく  
おれもいふしらす  
いんのかし何んか  
よあさあつしはい  
ていろうとや

りうちとら 源順  
たれお望ししあさうに林をわし  
十月つららの日敷とのあふもはち野  
おりてはとふんは

秋のいさうしそく  
あしはく又立物と告  
あまきしきいそ  
ひんあんと十月  
一目をれをさう

清原之博  
時面と  
らーあ

私人のあつたれし  
あつししやそあ  
あまきしきいそ  
とらんしそあ  
十月あつたれしそあ  
あつししそあ

神育のあつたれし  
十月あつたれしそあ  
あつししそあ

ひや新祐と

愛のあつたれし

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

彼等の同乃叶のあつたれし  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ

あつたれしそあ  
あつたれしそあ  
あつたれしそあ



春の直き(梅)...

つらもちの神のいんちき... かんく... かな

つらゆい

臨月の様... ありのわの福...

音響を... 申勢のみ...

村上里子

わい... 世... 下...

東文部... 孫尔通頼

加賀守從五位下 右中納言

わい... 世... 下...

三統之夏

はなほよ

春の直き(梅)...

西から...

小あ...

三統之夏

式部大臣 東文部

春の直き(梅)...

梅も...

あ...

梅の直き...

し...





いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

三巻院寛和二年七月  
十六日二十日春  
三巻院寛和二年七月  
十六日二十日春  
三巻院寛和二年七月  
十六日二十日春

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

高亮とあり元胸無三木のつかあふ

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色  
元胸無三木のつかあふ  
つらいつた事を御かく  
いとらま寄よまらとひ  
ゆいしとら

いふのさすの楓色



早坂より五十六  
七下りの想ひも  
へたれしあつたを  
わづらひけし世の  
はかなさを思ふ

水樹多佳歌 水樹乃本  
ゆりきかひりしや

白雲をうへへしけり  
の影うつるにまきか  
ひまのうへへしけり  
ゆりきかひりしや

この歌をよきあつた外  
あつたもわれれつと  
豊霜もつとあつた  
かろしつとあつた

ちり休しつとあつた  
ちり休しつとあつた  
ちり休しつとあつた

水樹多佳歌 水樹乃本  
ゆりきかひりしや

水樹多佳歌 水樹乃本  
ゆりきかひりしや

水樹多佳歌 水樹乃本  
ゆりきかひりしや

清水の女せれみこの八十  
ゆりきかひりしや

あれあゝ 貴く

あれあゝ 貴く  
あれあゝ 貴く

あれあゝ 貴く  
あれあゝ 貴く

あれあゝ 貴く  
あれあゝ 貴く

俗流俗 世心又人同  
其後云大は  
近俗ト云ハレ  
着同似過仙 深時鑑  
俗流ハ人同ヲ云ハレ

右大将實資  
ひひこのおれ

心明し

松平千景の御書

はくしつかりる何の事か  
てゆるふみらつふ侍るあふらるる  
つぎやゆるる

春の宗前秋のおはる  
焦るやとうへい  
六龍の山筑前

まはるし秋をさるるし

まはるし

心明し

安しきわらわらるる

春の宗前秋のおはる  
焦るやとうへい  
六龍の山筑前

藤原忠君初長  
右兵衛督

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

天曆御書

心明し

おはるし  
おはるし  
おはるし

おはるし  
おはるし  
おはるし

ことごとく

夏はあつた人あつた

小戴余夜

一何と四の... 寅二三四... 博正時...  
P上... 中... 由禁...  
P上... 中... 由禁...

人... 人... 人...

良冬う宗貞

夢... 夢... 夢...

題... 題... 題...

い... い... い...  
い... い... い...  
い... い... い...

花乃... 花乃... 花乃...  
花乃... 花乃... 花乃...

人... 人... 人...

花... 花... 花...  
花... 花... 花...  
花... 花... 花...

夏... 夏... 夏...  
夏... 夏... 夏...  
夏... 夏... 夏...

い... い... い...  
い... い... い...  
い... い... い...

藤... 藤... 藤...

い... い... い...  
い... い... い...  
い... い... い...

みいあひくハ八重を抄大將中  
少ねる夫ねは彼らこれ少將  
と名をつけておひひき  
ゆを人ひひねてとある  
とてねあはぬ  
をねとをひし  
つれいなる  
よれいなる

はしらが將のしゆるる高ふ昔第の辰年ぬ  
おひりておねのきふおしとわとつをけら  
と後るおとておひひのふはつとつ  
あひくおねのきふおしとわとつをけら  
あひくおねのきふおしとわとつをけら  
あひくおねのきふおしとわとつをけら

平公談

生いてきつ  
中るれやあ  
をさふりし  
ふあり

あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし

あひんりひきては  
あしは世にわ  
あしは世にわ  
あしは世にわ  
あしは世にわ

あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし

あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし

あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし

あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし

あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし  
あしらのし

梯下丸











はすのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
教書のあまされん  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

平貞盛の國書子孫の府將軍

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ

あまのり米のといふくろくまをいふとせんをせ初梅茶は右共此乃其名と八や清抄とあり  
かきあり梅茶  
大和名あて世まう  
まわりとせふとあういふ



世に人々を驚かすものありしを  
人の山若くは山をせんせ  
平小百本をばるる山の花は  
あきらかにあかきんか  
言ひかた

世に人々を驚かすものありしを

けり性因可花信候  
久米御作と出候  
朽木の信候て候  
いふにやとあはれ  
言ひかた

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

わすれりて袖を  
ほりてあはれりし

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

高作は和歌大馬郡也  
松乃名も福也  
とて是も福也  
百今也

小糸原手紙  
宣陽

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

香巻  
あはれりし  
あはれりし  
あはれりし

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

世に人々を驚かすものありしを

坂上御母サカキ文ノイフコ  
佐保大に解乃乃むまあり  
坂上の里にありまきしそ  
坂上御母サカキ文ノイフコ

長身といふは  
あまのこころ

みこ

坂上御母

いせに成りては  
いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

坂上御母サカキ文ノイフコ  
佐保大に解乃乃むまあり  
坂上の里にありまきしそ  
坂上御母サカキ文ノイフコ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

いそとあはらむそゆえ  
あまのこころ

申御言々持

キライラコノカキテ 紀少麻呂御母 藤原文子



世帯をたふしおれ  
ついでに不慮まふ

くつ御めあはしりきてつとる

可平とてあまのこころをさす

いぬ

ついでに不慮まふ  
ついでに不慮まふ  
ついでに不慮まふ

了よとてあまのこころをさす

和とてあまのこころをさす

ほしとてあまのこころをさす

一隆とてあまのこころをさす

いぬ

ついでに不慮まふ  
ついでに不慮まふ  
ついでに不慮まふ

いぬ

一孝とてあまのこころをさす

小ゆとてあまのこころをさす

ふとてあまのこころをさす

かたとてあまのこころをさす

中院の候

あまのこころをさす

いぬ

みとてあまのこころをさす

君とてあまのこころをさす

延喜御時中文屏風

和名産屋  
こころの御時  
君とてあまのこころをさす

ついでに不慮まふ  
ついでに不慮まふ  
ついでに不慮まふ



唐之集云... 五月... 四月... 奇... 明...

考之

つれなき... 伊なり...

女の... 藤原長能

おら... 藤原長能

福荷... 藤原長能

之良... 藤原長能

一五...

思...

女... 藤原長能

世... 藤原長能

之系... 藤原長能

ま... 藤原長能

今... 藤原長能

ひ... 明...

ひ... 明...

世... 明...

今... 明...

拾遺和歌集卷第二十

無傷

いしゆり海わいとほくみぬのま標の  
むらわら家のまもをていつかふかりん  
とのやうい題とみゆるる

小野宮を政令情怯云

年益盛

清心之捕

情怯云息女二人あり  
慶子女師 朱蔭院妃  
述子弘徽殿女師  
今一人大系女あり

標のまのけり  
とふかり盛あり  
けり人あり  
先づり

日時のまや付  
花のまのま  
しんひのま  
のま

お、新小夏のころらほくもつせおまよひんたん





予の父は善く  
眼を治し心  
を治すなり

は申大和の帝の帝の  
まうし宋の帝を  
帝と名をかりしては  
即位す人丸まうして  
わくたれ後重宝功  
只女の心  
を治すなり  
此の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

京極の光公正暦三年六月薨死恒徳公の諡号也

父の眼二年と眼全限る  
はれも眼の果して眼を  
手は眼の果して

眼の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

眼の心は  
眼の心は  
眼の心は  
眼の心は

恒徳二年

法名寂定

古今忠孝奇事  
奇乃心古今

丁未のころの神にやまは海の白しはあらん

義孝 後五位上名直少 天延三年 四月十六日

謹徳の山方さりとさくたつて後

詔徳の山方さりとさくたつて後

芳んゆんくおりくさくはりあつてさ

藤忠為頼 中田兼神珠 刑部卿雅正子

藤忠為頼

右衛門督公任

常あつた

常あつた

おやまきしほなるらんがこのいぢり

伊勢

あきくあるはまとなあまのあははあ

あきくあるはまとなあまのあははあ

ういんあがひんあはまのあははあ

ういんあがひんあはまのあははあ

清原之捕

かひあふあめあつてふかあつてあ

かひあふあめあつてふかあつてあ

平意感

あきくあるはまとなあまのあははあ

あきくあるはまとなあまのあははあ

あきくあるはまとなあまのあははあ

あきくあるはまとなあまのあははあ

あきくあるはまとなあまのあははあ

此世の中を歩む人の心  
かたがたの心(心)  
かたがたの心(心)  
かたがたの心(心)

ふたりの心(心)の心(心)の心(心)  
大純言(大純言)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

藤原(藤原)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)

心(心)の心(心)の心(心)  
心(心)の心(心)の心(心)







其竹の土をいかにわづらひて  
根をいかにけりて  
朱雅虎みよらち

御製 朱雅虎御作

かみ入の命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
かみ入の命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
かみ入の命とあはれ  
せのしるし事とひそ

九道春也

かみ入の命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
かみ入の命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
かみ入の命とあはれ  
せのしるし事とひそ

草まゝの命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
草まゝの命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
草まゝの命とあはれ  
せのしるし事とひそ

忠輝南の房れ  
源相方初信  
忠輝南の房れ  
源相方初信  
忠輝南の房れ  
源相方初信

山寺の命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
山寺の命とあはれ  
せのしるし事とひそ  
山寺の命とあはれ  
せのしるし事とひそ

元はちぬ牙は世に大車と  
与りてまゝ出せしよしと  
朱子物学文、勿謂今日  
木多子而有乘日と  
いふことありたり

此傳(法華經譬喻品)長者の  
古宅火焼し、子共曰、まじし者、  
おを父乃若も羊鹿牛車と  
門外次、大白牛車  
にて、嗚、曰、  
けし、羊、を方、  
之、赤、を、ほ、て、  
為、赤、牛、車、出、於、火、宅、  
短

世にわろ人、大方、死す、  
知、わ、れ、  
か、つ、  
あ、

ついでくゆる

度滋保胤

ス内記  
法元を敬直は極忠行

きつとす

ふん

の車のありまがしあまをて  
法師あんとらるるのやりぬ  
あうかみぬとてゆるる

藤念高光

眼ゆるるえちひらゆるるぬあふ  
ゆるるあふてゆるるるる

吾は眼をくぬ  
いかにせむ  
いかにせむ  
いかにせむ

色  
ふん

眼者もれく我はあふ  
皆具成佛道の  
Gandha

成信重家らゆるるるるるる

成りふらゆるるるるるるる  
長保二年二月三日出  
右忠門將

あふ  
か初言藤原統理

とまぬるてゆるるるるるるる

上は福子、下は藤原、中は藤原

白福世日三みく  
和えしるれぬ  
うゝあふらり  
へーこころはけり

志望のう風はけり心はらのほしがるん  
女院御八誨捧物御座りてあはれ給ふ  
東三多院女院の御座り

女院

選内親王村上皇女女院を

女院の御座り  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

天曆御時ぬ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

御製

為雅初信普同寺  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

侍中守正四位下臣アヤノ

信長

小治ふまうりて  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

春宮大史道徳母  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

上るべきの乃  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

大將海時向月  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

實方初信

彼は海を遊べる  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ

御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ  
御座りてあはれ





天福元年  
四家院即位之也  
延保二年壬午誕生  
二年壬午六月廿一日  
卒巳七十三

天福元年仲秋中旬  
此集世之前傳  
抄年五百九十四首  
上三百廿五  
下三百六十九首

中柳玄師氏

或本無入校撰  
赤深

此二首集不見哥也

五百九十三首 集抄全相遠

拾遺抄哥

春五十七

秋四十九

賀正一

雜上七十五

雜上七十五

夏三十二  
冬廿二  
別四  
在下七十五二首集不見  
雜下八十六

此本付屬大夫為相 顏齡六十八葉門融覺判

以相傳秘本 具書宗校合記

德治三年閏八月十七日 參議藤原朝臣判

融覺  
建久八年誕生  
元七年八月八日  
建治元年五月朔逝七十九

即位之年

延寶七年己未 八月三日是物出之初是日年霜月十八日終切乎

山村李吟

